



「日本画にみる 富士と桜」展より
松岡映丘《道成寺》大正6年
姫路市立美術館蔵

TOMO no KAI NEWS

Toyohashi City Art Museum

FU 風 伯 HAKU

展覧会紹介

豊橋市美術博物館「新」収蔵品展

■ 平成18年4月8日(土)～5月21日(日)

■ 会場 = 2階第3～5展示室【入場無料】

ご存じでしたか? 「新」収蔵品展

豊橋市美術博物館では、前年度までに収蔵された資料を「新」収蔵品展と称して公開を行ってきました。このたびの「新」収蔵品展は、平成17年度に収蔵された資料を紹介するもので、いずれの作品も当館に所蔵されてから初めての一一般公開となります。昨年度には歴史部門18件(購入資料12件、寄贈資料6件)、美術部門60点(購入作品6点、寄贈作品54点)が新たに加わりました。



岸田劉生[田村氏の肖像]1914(大正3)年

展示の見どころ

歴史資料では、五雲亭貞秀の《東海道写真五十三次勝景》をはじめ、二代歌川国輝や豊原国周らの手がけた「おかげまいり」の図を中心に紹介いたします。

美術資料では、長らく秘蔵されていたためにこれまで一般の目に



上田薫[卵にスプーンA]1986(昭和61)年

触れることのなかった岸田劉生の《田村氏の肖像》や木村莊八《自画像》が公開されます。また、中村岳陵の描いた戦前の代表作のひとつ《流紋》、日本のスーパー・リアリズムを代表する上田薫の《卵にスプーンA》、水彩画家・中西利雄の《人物(A)》、水芭蕉曼茶羅を描きつづけた佐藤多持の寄贈作品2点を紹介する他、一括寄贈を受けた平川敏夫作品32点よりその一部を先行公開(他の平川敏夫作品については次回常設展示で一堂に公開する予定です)。書家・鈴木翠軒の書簡や臨書手本などの資料も展示いたします。ぜひ、ご高覧下さい。

収蔵品展ボランティア・ガイド募集

収蔵品展(上記の「新」収蔵品展をのぞく)では、ボランティア・ガイドの皆さんが作品解説を行っています。これまで風伯誌上でもガイドの皆さんの活動をご紹介してきました。このたび豊橋市美術博物館ではボランティア・ガイドの第2期生を募集しています。活動に興味をお持ちの方、養成講座に参加してみませんか?

対象 / 8回にわたる養成講座(郷土美術)を続けて受講し、収蔵品展(年1回開催)の際に解説ボランティアとして実際に活動していただけの方

養成講座 / 第1回講座(概要説明)は5月10日(木)午後2時～以後は5～8月の第2・4水曜日(全8回/日時等は都合により変更される場合があります)。9月以降は収蔵品展ガイド実演に向けて不定期の集合となります。

申込方法 / 4月末日までに住所・氏名・年齢・電話番号・応募した動機を明記したハガキを豊橋市美術博物館まで(440-0801豊橋市今橋町3-1)お送りいただき、上記の第1回講座にご参加ください。

定員 / 20～30人程度
(応募多数の場合は面談等により審査する場合があります)



収蔵品展「静物画の愉しみ」でのボランティア・ガイド

加藤正俊教育長にきく

— 感動との出会い —

今、子どもたちの情操教育、感性教育について、学校ではどのような取り組みをしておられるのでしょうか。

感受性豊かな子ども時代に感動体験に出会えることはとても大切です。人はそれぞれ違う感性をもっているのだから、皆が一樣に同じ感動を体験するわけではありませんが、一人でも、一つでも魅せられるものに出会うことができればその後の人生の豊かさに繋がるものと思います。“出会い”が大切なのです。

教育の現場では子どもたちにさまざまな「出会い」一人であり、物であり、出来事であり一を準備し、提供していくことが重要な課題だと考えています。今、学校は週5日制となり、授業時間も学習内容も削減されていますが、体験を通して感性を揺さぶるための試みはいろいろなされています。

音楽、演劇、伝統芸能などの本物を学校に呼び込むこと、また、クラブ活動が学校の自由裁量となり、衰退するのではないかと危惧されましたが、逆に、開かれた学校活動となって、能力、才能をもった地域の人々に参加してもらい、素晴らしい結果も出ています。

地元の民話に基づいた野外劇を、地域一体となって、世代を超えて継承している学校もあります。そこには感動を共有し、親子の対話が生まれます。また自らの田んぼを持って、“米作り”の田おこしから汗を流し、収穫したお米を野外教育活動で飯盒炊飯して食べることで、“もったいない”の心を自然に身に付けていく子どもたちの姿を見るのは感動しますよ。

そんな特色ある教育活動は、どのようにしてできるのでしょうか。そして、美術博物館の活用についてはいかがでしょうか。

そうした教育は各学校の裁量で選択していくことができます。選択肢の一つとして美術博物館があってもいいのです。

美術博物館には本物の芸術作品があり、素晴らしい郷土の歴史資料があります。子どもたちが、それらを直接体験することは、感性を揺さぶり、郷土を愛する心を養う上で、大事なことだと思います。本物には力がありますよ。多勢の子どもたちが、学芸員や、ボランティアガイドを取り囲み、眼を輝かせている光景を美博で見ることができたら素晴らしいじゃないですか。

市内の全小中学生が、美博で体験学習をすることは物理的に難しいことではありますが、選択可能な特色ある教育活動の中で、実習体験学習を取り上げることは歓迎すべきことです。

美博の方でも学校への出前講座、ワークショップなど子ども教育関連の取り組みを計画してくれています。教育委員会も美博と連絡をとり、そのための情報提供は積極的にしていきます。

そしてもうひとつ、子どもたちを教える教師に、現職研修として、美博、二川宿本陣などを視野に入れて、体験してもらい、教育現場に生かせるようにしていくことも効果的でしょうね。



子どもたちの眼を美博に向けさせる何かアイデアはありますか。

豊橋祭りの「造形パラダイス」、世代を超えて、あれだけの人が美博の周りに集るのだから、そこで子どもたち、その親や祖父母たちを美博に眼を向けてもらう取り組みがあるといいですね。イベント、企画展、学校、児童生徒、先生などの作品展など。人は身近なもの、関係のあるものには興味をもち、入っていきやすいものですからね。

それと、人間というのは、器を作るとその器の中に入れる機能ばかり考える傾向があるのですが、外にあるものとコーディネートすることによって、新しい魅力も生まれてくると思うのです。たとえば市電通りの史跡や文化をめぐるコース、豊川沿いの歴史や自然をめぐるコース、街中の由緒ある店、建物等をめぐるコース、そんなラリーのようなものを考える。その要として美博は位置としても機能としても適切なものです。リピーターを取り込むには、工夫が必要ですね。

最後に新美術博物館建築構想が見直しとなったことについて。

残念なことです。厳しい財政環境中での苦渋の選択だったと思いますが、前向きに検討を進めてきていた段階での見直しなので心痛みます。私どもとしては、美術博物館の現状認識と未来構想について検討し、何とかしていかなくてはとの気持ちに変わりありません。計画よりも多少遅れることにことになりますが、これからも皆さんと心をつなげて、さらに大きな機運を盛り上げていかなければと思います。

(「風伯」編集委員会)

展覧会紹介

日本画にみる

富士と桜

富士の競作、桜の饗宴

5月13日〈土〉 - 6月11日〈日〉

開館時間／午前9時～午後5時 月曜日休館

主催／豊橋市美術博物館、中日新聞社



富士と桜は古くから日本美の象徴とされてきました。

富士の気高さは日本人の清廉で潔白な心情を表すものとして、万葉の時代から多くの詩歌に詠われてきました。一方、桜の豪華絢爛さは江戸時代の琳派を連想させると同時に、散り際のはかなさと潔さは水墨画の簡潔さにも通じるものがあります。この富士の気高さと桜の豪華さ、また潔さは、永い歳月をかけて育まれてきた日本美の核心そのものといえましょう。

本展覧会は、近代の日本画を中心に富士と桜を描いた数々の秀作を展覧し、あらためて日本人特有の感性と多彩な美意識を検証しようとするものです。



(主な出品作家)

竹内栖鳳 横山大観 山元春挙 川合玉堂 下村観山
 菱田春草 上村松園 鍋木清方 富田溪仙 北野恒富
 今村紫紅 松岡映丘 小林古径 安田靉彦 前田青邨
 川端龍子 村上華岳 奥村土牛 小野竹喬 池田逋邨
 山本丘人 小松 均 片岡球子 東山魁夷 杉山 寧
 高山辰雄 吉田善彦 加藤東一 森田曠平 横山 操
 平川敏夫 加山又造 上村淳之 ほか

記念講演会

5月20日(土) 午後2時～

「日本美の原点」

上村淳之氏(日本画家)

6月3日(土) 午後2時～

「富士と桜の美術-伝統と創造-」

金原宏行氏(豊橋市美術博物館長)

箏のしらべ

5月27日(土) 午後2時～

「独箏(ひとりごと)～富士と桜展によせて」

杉浦 充氏(箏演奏家)

ギャラリートーク

5月17日(水)、28日(日) 午後2時～

<写真>

上 竹内栖鳳《富嶽》昭和2年

左 小野竹喬《春朝》昭和47年

高崎市タワー美術館蔵

右 上村松園《花見》明治43年

松柏美術館蔵

絵葉書のなかの豊橋

～思い出の風景をたずねて～

4月29日(土)～6月11日(日) 豊橋市二川宿本陣資料館

※月曜休館 ※9:00～17:00 (入館は16:30まで)

絵葉書といえば観光地の土産物などが思い浮かびますが、現在ほど電話やカメラが普及していなかった明治から大正・昭和前期にかけては盛んに刊行されました。

有名な観光地でなかった豊橋においても、駅・豊橋(とよばし)・町並み・豊川(とよがわ)や石巻山などの風景を題材としたものや、会社・学校設立時に記念品として多数制作され、また、歩兵第18聯隊や第15師団等が設置されていた関係で軍関係の絵葉書も数多く刊行されました。

この展覧会では豊橋市内の風景やイベントを題材に刊行された明治末～昭和30年代頃までの絵葉書約1,000点を展示することにより、町並みや風景の変遷をたどると共に、絵葉書に写された当時の風俗や時代背景を紹介します。



—記念講演会—

講師 大林淳男氏

演題 「写された豊橋の風景と出来事」

受講料 無料(ただし、入館料が必要)

日時 5月7日(日) 午後1時30分～

定員 先着50名

申込み 4月18日(火)より電話で二川宿本陣資料館へ 0532-41-8580

写真展「大地への想い」によせて

写真家 水越 武

人間を拒絶して「自然の聖地」と呼べるような辺境の地を、私は好んで歩いてきた。カメラを持つようになったこの40年間は毎年のように出かけて行き、南極を除いた六つの大陸に足を踏み入れた。この原稿を書いている今も、アフリカのルエンゾリ山から帰ってきたばかりである。数々の忘れ難い旅の中でもっとも強烈な印象を残したのは、アフリカ・コンゴのヌドキ



バルトロ氷河(カラコルム)

の熱帯雨林とカラコルムの五大氷河である。

ヒマラヤの西に位置するカラコルムにはK2を始めとする八千メートル級の山が四座、七千メートル峰は八十座以上もあり、その上大きな山岳氷河が集まっている。この内の主だった氷河を踏査し、兩岸にそびえる峰々を一気にフィルムに収めようと、夢のようなことを思いついた。

この辺りはインドとパキスタン、アフガニスタンの国境地帯で紛争も続いており、パキスタンから登山許可を得るのに3年を要した。1976年の春にカラコルムに入り、テント生活をしながら4か月かけて5つの氷河を歩いた。

氷河は生き物で、激しく変化し、多様な貌を見せた。俯瞰すると、氷河に削られた無数の岩が運ばれて、色の違う縞模様となって蛇行していた。氷河の上で寝ていると背中の下でズシンと音が響き、氷が動いていることを実感させられた。

途中で7422メートルのシア・カンリの頂きに立ち、未知の地域の初踏査にも成功した。長さが72キロメートルもある最後のシアチェン氷河に入ると、源流部に未踏峰のホーク(6754メートル)が端正な美しい姿を見せた。

精神的にも肉体的にも極限まで追い込まれる厳しい旅だった。しかしあこがれや夢を現実のものとするこ



スノーレイクピアフォ氷河(カラコルム)

とは、私にとって何者にも替え難い大きな喜びだった。

このカラコルムの踏査行では、生まれ故郷である豊橋の方々には様々な形でお世話になった。30年近く経った今でも、当時受けた数々の温かい思い出が私の胸にふつふつと蘇ってくる。

創作をする人間は、自分の作品でしか応えることができないと私は信ずる。写真は私にとって自分の行動を示す軌跡のようなものだ。その意味で今回の写真展「大地への想い」が豊橋の多くの方々の目に触れる機会となることは、私にとって本当にありがたいことである。



未踏峰ホーク(カラコルム)

水越 武 (みずこし・たけし)

昭和13年、豊橋市新本町に生まれる。時習館高校卒業。昭和40年自然写真家の田淵行男に師事して写真を始め、今日まで一貫して自然写真を撮り続ける。海外、国内で多数個展開催。写真集「日本の原生林」で平成3年度日本写真協会年度賞を受賞。平成11年には写真集「森林列島」で土門拳賞を受賞。北海道在住。

水越武写真展「大地への想い」 Takeshi Mizukoshi's Works

会期／6月17日(土)～7月16日(日) 会場／豊橋市美術博物館

名画とミステリー

小田正宣 (210)



昨年、全世界でベストセラーとなったダン・ブラウン著「ダ・ヴィンチ・コード」が映画化され、5月の日本公開を待つばかりとなりました。映画大好き、ミステリー大好きな私にとっては、待ち遠しい限りです。

この物語は、巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチがある目的のために彼の代表作「最後の晩餐」の中に隠した「暗号」の謎がストーリーの軸になっています。

洋の東西を問わず、名画とミステリーはすこぶる相性が良いようです。とりわけ「ダ・ヴィンチ」や「ゴッ

ホ」の名画は、作品自体あるいは作者自身の持つ「謎」ゆえにすでに第一級のミステリーとして圧倒的な存在感があります。

「微笑を湛えたモナリザは一体誰なのか？」

15年前、私はミラノ、パリを旅行した際、ダ・ヴィンチの傑作「最後の晩餐」「モナリザ」を鑑賞する機会に恵まれました。またその2年後には、ブラド美術館でモナリザのモデル有力説「マダム・ジョコンダ」の肖像画も鑑賞したのですが、当時はいずれもその深遠なるミステリー性に思いが至らず、惜しいことをしたと悔やまれます。

近隣の美術館にも、こんな「謎」を秘めた名画が一枚欲しいと思うのは、ミステリーファンのわがままでしょうか？

すみれの花

白井富子 (1708)



「好きな花は何？」と聞かれると即「すみれの花」と答えます。

芭蕉の「山路来て何やらゆかしすみれ草」という俳句が大好きです。山路を歩いて来て、疲れた人の足を止め、すみれの花を見つける事によってほっと心なごませてくれるからでしょうか。すみれの紫は私の一番好きな色でもあります。

私は日本画を描いていますが、私の作品を見て心がやすらぎ、あたたかい気持ちになったと言って下さ

る人が一人でもあればうれしいなと思っています。

人生の座右の銘は、「自分に厳しく他人に寛大に」「感謝」「愛は寛容である」と「我以外皆我が師」です。既に還暦を過ぎているのに知らない事ばかり、日々皆様に勉強させて頂いています。

一度大病をし、死の恐怖を体験した事がありますので、朝目が覚めると「ああ今日も生きている」と生きているだけで毎日感謝しています。

これからの人生も全ての事に感謝し、1日1日を大切に何事にもプラス思考で、何を見ても感動し、ジャンルにとらわれることなく、感動した物を描き続けていきたいと思っています。

表現

福島陽子 (740)



人は毎日自己を表現しながら暮らしている。何を食べるのか、何を着るのか、何処へ行くのかを選択し行動によって自分を表現している。人生を通しての目標や仕事、言葉遣いや身のこなしまでもが表現である。選択と表現の連続が人生に他ならない。

「うるしの神様」と呼ばれた

蒔絵の松田権六が「何をしてもその人が出る」と弟子に向けて個性と作品についての示唆を与えたと聞く。表現こそがその人。様式や技術の枠を超えて、人となりや品格をも余すところなく晒していく。

絵画や彫刻・書・工芸・写真などの芸術を表現する人々がいる。創造されて有形となった作品が我々の前に現れる。舞台は美術館。表現の尊さ、心地良さが共感と感動を生み出す。或る者は芸術表現を触発され、或る人は生きる希望に救われるかも知れない。特に子どもや若い人たちにとって美術館が学びの場であることを強く意識すべきだと思う。次世代への教育は大人の責務であるから、このことに尽力しない感性は野暮なのである。

生活表現と芸術表現の融合は美術館を起点として文化となる。人は用の美を始めとし生活にも、芸術においても美的価値を追い求めてきた。心の有り様も含めて美しい表現が満ちていく世界。そんな成熟した社会をずっと夢見ている。

平成18年度総会のお知らせ

日時／5月14日（日）午後2時30分～ 場所／豊橋市美術博物館 講義室

●総会記念講演 午後3時30分～

豊橋市美術博物館長 金原宏行氏「富士と桜の美しさを満喫する」

館長のひとこと「絵画の鑑賞は、まず絵を好きになってもらうことが第一歩になります。今回の展覧会は、その絶好の機会になりましょう。」

平成18年度企画展

豊橋市美術博物館	
展覧会名	会期
豊橋市美術博物館「新」収蔵品展	4/8～5/21
第28回豊橋美術展	[写真・書道]4/25～4/30 [絵画・彫刻・デザイン]5/2～5/7
日本画にみる 富士と桜	5/13～6/11
水越武写真展～大地への想い～	6/17～7/16
市制施行100周年記念展 豊橋の風景～歴史を語るものたち～	7/21～8/20
造形集団 海洋堂の軌跡～サブカルチャーと現代～	7/28～8/27
市制施行100周年記念展 豊橋市美術博物館～絵画名品100選～	10/6～11/5
第56回豊橋市民展	[絵画・彫刻・デザイン]11/21～11/26 [写真・書道]11/28～12/3
二川宿本陣資料館	
展覧会名	会期
絵葉書のなかの豊橋	4/29～6/11
東海道名所風景展Ⅰ	7/22～9/3
東海道の城下町展Ⅱ	10/7～11/19
東海道五十三次宿場展ⅩⅤ	2/17～3/25

《豊橋市美術博物館からのお知らせ》

美術博物館整備事業の延期について

今、国も地方も非常に厳しい財政状況におかれています。豊橋市の財政状況も、その例外でなく、地方分権により市の行うべき業務は増大しているながら、国の補助金や地方交付税などの収入は大きく減り続けており、将来を見通した財政運営も過去に無いほど厳しいのが現状です。そうした中で、現在、計画している市の大型事業がすべて見直され、その結果、美術博物館整備事業は延期をしなければならないことになりました。

多くの皆様のご期待を頂きながら美術博物館の建設時期が遅れることは残念ではありますが、このことを美術博物館のあり方を今一度考える大きなチャンスと位置付け、来るべき時期に向けて、さらに魅力的な企画展・講座・シンポジウムなどを積極的に開催するなど、美術博物館に集まる人の輪を更に大きくしていきたいと考えています。

改めて、友の会の皆様の一層のご協力をよろしく、お願い申し上げます。

収蔵品紹介

ふ がく とう ふう
[富嶽涛風]

中村正義の勧めで、創造美術に初入選を果たして以来、新制作協会日本画部、創画会へと会の変遷とともに活動し、日本画家としての地歩を固めた。初期の幻想的な庭や陶土の丘、中期の荒々しい原生林、後期の墨を主体にした雪景色など…。時代とともにその画風はめまぐるしく変化したが、郷土東三河に根をおろして制作を続け、一貫して風景画に挑んだ。また後年には、心に響く日本の原風景を求めて全国各地を駆け巡り、独自の墨画を確立した。

厳冬の情景であろうか。強い北風を受けながら、白い

平川敏夫 ●HIRAKAWA, Toshio

平成7年(1995) 絹本墨画着色、額装
80.3cm×116.7cm

波しぶきを上げて荒れ狂う海原を前景に、雪化粧を纏い清楚に佇む富士の稜線が、遠景に浮かび上がる。北京が描いた晩年の傑作、富嶽三十六景〈神奈川沖浪裏〉を想起させる大胆な構図の中に、自ら編み出した「白描画法」(水溶性ゴムによるマスキングを応用した白抜きの技法)を駆使したモノトーンの特徴的な世界がひろがり、動と静の対比がドラマティックな効果を挙げている。〈富嶽涛風〉と題された本作は、風景の会第10回展を記念して開催された「平成の富嶽百景」(1995)で発表されたのち、鈴木進監修による画集「日本の美

富士」(美術年鑑社刊)に収録された。また「富士を描く日本画名作展」(2000~2001)などにも出品歴があり、広く一般に人気を集めた。

今年3月末に本作を含む32点(屏風14点・額面18点)が、作家の申し出により収蔵された。当館にとって、中村正義や星野真吾に並ぶ戦後日本画の重要なコレクションとなった。

(豊橋市美術博物館主任学芸員 大野俊治)

「富嶽涛風」は「日本画にみる富士と桜」展(5/13~6/11 豊橋市美術博物館)に出品されます。

会員更新のお願い

更新手続がお済みでない方はお早めにお問い合わせいたします。再度、郵便振込用紙の送付をご希望の方は美術博物館までご連絡ください。(TEL 0532-51-2882 FAX 0532-56-2123)

〈お知らせ〉

友の会創立20周年を記念して、ドレスデン、パリの美術館を巡る研修旅行を10月に企画しています。詳細は追ってお知らせします。

編集後記

■ 岐阜県美術館で〈日本近代洋画への道〉展を見ました。山岡コレクションに岐阜県美術館の所蔵品を加えて構成されています。高橋由一からスタートした日本の洋画の歩みを辿ることができます。後年ヨーロッパの新しい潮流を受け入れて花開いた日本洋画の原点を顧みる展覧会でした。由一や芳翠の作品が多数並ぶのも珍しいことでした。(清水)

■ 幼い頃、母が購読していた婦人雑誌には、名画シリーズの綴じ込み付録があり、それを切り取り額に入れて、子ども部屋に飾ってくれました。

不思議に憶えていて、後年、本物を見る機会に恵まれた時には、極上の ― 感動との出会い ― を味わっています。(片岸)